

私たちがめざすもの それは・・・

ゆたかな緑 きれいな水 いきた大地

NPO法人水環境研究所

# わきみず通信

第20号

平成29年11月10日発行



行屋井戸 (大多喜町)

## 活動レポート

### ♻️ 畔田谷津レポート「大変、湧水が枯れた！ なんで？」

千葉環境再生基金の助成事業としてスタートした畔田谷津調査は、千葉大学近藤研究室の協力を得ながら2年目に入りました。一年目の調査では、地質調査を行い、ピエゾメーターや観測井を設置して畔田谷津の地下水の基礎的な情報を収集しました。その結果、湧水は水路内で脱室されていること、谷津の湿地を構成している沖積層は3m前後の厚さで木下層の砂層を覆っていること、沖積層の表流水が湧水の水質とかなり違っていることが分かったのです。

一年目で観測井の設置に自信をつけた我々は、さらに沖積層内に50cmごとに観測井を作ることにしました。以前設置した3.5mの井戸の周りに8本、まるでミステリーサークルです。



掘削は若い学生さんが頼りです！



観測井のミステリーサークル？

2年目は、沖積層内の地下水の動態を探るのが目的です。第1回目の採水は9月23日に実施しました。その結果、沖積層内の地下水は結構複雑な動きをしていることがわかってきました。

ところで、2ヵ所から出ていた湧水とその右岸、左岸の水路が6月の調査以降涸渇してしまいました。10月末時点ではやっと湧水1が復活したものの、未だに湧水2では枯れたままです。

これまでの成果は、土木学会や地下水学会で発表しました。本調査は、毎月定期的に現地調査を実施しています。データの問い合わせは事務局までお願いします。



ミクリ？をみつけました。



枯れた2箇所の湧水

## 環境学習on「川の学校」

昨年に引き続き、今年も NPO 法人八千代オイコスが主催する「川の学校」とのコラボして、7月29日の暑い夏の日、環境学習に講師として参加しました。テーマは、前回と同じ「水の循環」、相変わらず難しいテーマです。

今年は、花輪川をはじめとする下総台地の谷津がどのようにしてできたのかを地質屋の目から紙芝居風にまとめました。流動模型は昨年同様中央博物館から借りました。瀧会長自作の実験装置も昨年の反省を生かしてリニューアル、やる気満々です。さて今年はどううまくいくな？

イベントに参加した子供たちは可愛い小学校3年生からちょっと大人びた5年生たちでしたが、熱心に耳を傾けてくれ、今年も成功！の実感がありました。



模型を使った水循環の話



さー、紙芝居が始まるよー！



瀧会長の自信作！改良型地下水浸透実験装置



きみ、測定値はきちんと記録しようね



これから地下水をつくるから良く見ててね～！

## 湧水モニタリング始めました。

秋も深まり、いよいよ湧水調査に絶好の季節に入りました。湧水モニタリング調査は「ちばの湧水めぐり」の発行から7年めに入りました。これまでの成果は今年発行した「年報 わきみず 4号」にまとめてあります。

この7年間に新規に調査対象に加わった地点を含めると、現在の調査地点数は約68地点に及びます。来年の「ちばの湧水めぐり改訂版」の発行をめざして、今年のモニタリング調査はこれまでになく密度の高い調査を目指しています。

調査はエリアごとに2～3名ずつのチームを組んで、約半年をかけて進めます。今年は台風によって各調査チームはスケジュール調整に苦戦していますが、何とか少しずつデータが集まっています。これまで参加したことがなかった皆さん、ぜひ一緒に湧水に逢いに行きませんか？



清らかな水が湧いている中白湧水



# ご参加ください

## ★畔田谷津調査(千葉県再生基金助成事業)

本調査は2年目を迎え、毎月1回定期調査を実施しております。次回の調査は以下のとおりです。皆様のご参加をお待ちしております。別途メールでのご案内もしております。

調査日 各月1回 土・日・休祭日のいずれかに実施  
集合場所 本昌寺ユーカリが丘墓苑入口(アコーディアガーデン志津ゴルフ場下)  
時間 9:30

参加ご希望の方は事前にお申し込みください。電車等で起こしの方は京成ユーカリが丘駅にお迎えに上がります。  
TEL: 080-6515-6497(担当 岩井) E-mail: [kubi\\_0929@yahoo.co.jp](mailto:kubi_0929@yahoo.co.jp)

## ★湧水モニタリング調査

今年度も昨年度に引き続き、各エリア別に湧水調査が始まります。今回は各コースの見どころを紹介いたします。お友達、ご家族をお誘いの上ふってご参加ください。各コースのスケジュールは皆様のご参加をお待ちしております。日程は随時メール、ホームページを通して皆様にお知らせいたします(お申し込みは 岩井080-6515-6497まで)

- ① 手賀沼エリア こん袋池、四季の丘湧水、増尾湧水など8カ所  
手賀沼の周辺に分布し、下総台地の裾から湧く湧水が特徴です。手賀沼の北岸ではシルト層の崖から、南岸では段丘に湧く様子を直に観察することができます。また、史跡「月出の井戸」など故事来歴のある調査地点も見どころです。
- ② 外房エリア 神余の弘法井戸、灰汁井戸、清澄水など7カ所  
南房総市や館山市を中心とする本コースには、千葉を代表する観光地を通るためドライブも楽しめます。また「神余の弘法水」は故事来歴のほか黒褐色の温泉に近い成分を持つ個性的な湧き水で、必見です。
- ③ 印旛沼エリア 加賀清水、上座公園、西御門など17カ所  
下総台地を涵養域する本コースの湧水は、印旛沼の水源として重要な役割を担っています。流域ではのどかな谷津田風景を見ながら湧水を観察することができます。都市化が進む本エリアでは、谷津田の開発による湧水の消滅や窒素による地下水汚染など多くの課題を抱えています。
- ④ 内房エリア いっせんぼく湧水、黄和田湧水、瀧不動尊など11カ所  
市原市を中心とするこのコースの湧水は下総層群から上総層群と地質環境が変化するエリアに分布し、下総台地とはまた湧出機構が異なり、一味違う湧水が見られます。水質にも特徴があり、硫黄臭がする湧水が見られるのもこのコースの楽しみです。
- ⑤ 九十九里エリア 猿田神社、石尊様、龍福寺の湧水など11カ所  
長南町から銚子市まで太平洋側の湧水を観察します。地形地質が変化するこのコースでは湧出機構に様々なタイプの湧水があり、故事来歴、湧水量、窒素汚染など様々な特徴をみることができます。
- ⑥ 奥東京湾エリア 羅漢の井、宮の下湧水、村田川湧泉など7カ所  
都市化が進む市川市、松戸市や千葉市の湧水を観察します。ビオトープや公園など都市部に特徴的な整備された湧水が特徴です。村田川湧泉は毎分700リットル以上と全調査地点中有数の湧水量を誇ります。
- ⑦ 利根川エリア 権五郎目洗いの池、横山湧水、長寿水など6カ所  
野田市～神崎町までの利根川沿岸のコースです。のどかな田園風景と共に故事来歴の湧水や生活に密着した湧水を観察できます。

## シリーズ 湧水伝説

# 印旛郡誌に見る湧水と人々 (7)

## 新川沿いの湧水

新川低地沿いの東側台地裾は湧水の多いところです。印旛郡誌の中から、次の2つの物語を紹介しましょう。

### (1) 阿蘇沼(鴛鴦(おしどり)伝説の池)

阿蘇村(現八千代市)の村上にあり。平入道某は、オシドリの雄を射て獲ったところ、その夜、夢の中に一婦人が泣きながら現れて、次の唱を詠んだ。

夕暮れは 誘いしものを阿蘇沼の マコモ隠れの 一人寝ぞ憂き

某は、明日また雌を射て獲ってしまった。夢に現れた雌は翼の間に雄首を抱えていた。某は、憐れんで一寺を建て、鴨鴛寺と呼んだ。この沼は広大であったが……今は沼面積を縮小して片葉の葦が生い茂っている。



この話は、鴛鴦の相恋に因んで生じたものといわれ、池中の弁財天は片葉の辨天といえます。

また、村上村寺内に正覚寺があり、鴨鴛寺と称す、ともあります。現在、正覚寺の前に木々に囲まれた弁天池があり、これが阿蘇沼といわれています。現在も池には水が湧いているようです。

オシドリ伝説は、別のところにもいくつかあり、印旛郡誌の中に富里村(現富里市)古跡名勝として鴛鴦寺跡の記事があります。千葉常胤が中津大谷津で狩りをして雄のオシドリを射たところ、前記同様の事件に

会い、鴛鴦寺を建てた。その寺跡は、昌福寺の所有となっている、とあります。

### (2) 起木の辨天

村上区(現八千代市村上)字堂後の田んぼの中にあり。昔境内に周6尺余(約2m)の檜の木のある鬱蒼とした茂みがあった。巳年の嵐のときに大樹が倒れて通行人の妨害となり、村人が集まって明日伐採しようと話し合った。その夜半にザワザワと人声がしたので、翌朝、村人が怪しんでその場所を見ると、昨日の倒木が自ら起き上がって以前と同じように茂っていた。村人は、弁天様の力として歌を詠んだ。

見渡せば 野にも山にも はなれ島

伏したる木さへ ききのつか寺

起木の辨天の池はどこにあったか、現在となつては分かりません。

阿蘇沼・起木の辨天のある新川東岸の台地裾には、この他にも平沢の池・黒田池などの湧水が紹介されています。いずれも水田灌漑用に使われていた湧水です。(文 白鳥孝治会員)

## 事務局からのお知らせ

### 平成29年度会費の納入のお願い

お支払方法：銀行振り込み(振込先 千葉銀行 本店営業部(普通) 3706977  
又は事務局へ直接(080-6515-6497)

本法人は皆様の会費により運営されており、活動に伴う消耗品や活動参加者への交通費、日当等に充てられています。どうぞ会員の皆様方には、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

### 「wakimizu通信」第20号

発行 平成29年月11月10日

編集・著作 特定非営利活動法人水環境研究所

URL: <http://www.wakimizu.org/>

お問い合わせは下記まで

e-mail: [office\\_iwe@wakimizu.org](mailto:office_iwe@wakimizu.org)

\*\*\*\*\*編集後記\*\*\*\*\*  
平成29年残り2か月となりました。忙しさに甘えて「湧き水通信」の発行がだいぶ遅れてしまい、事務局として深くお詫び申し上げます。

今年は、弘前で開催された地下水学会で畔田谷津調査の成果を発表し、多くの皆さんのありがたい意見を今後の調査に活かしていきたいと思えます。発表ポスター、千葉大学近藤先生のご厚意で印刷していただきました。ありがとうございました。それにしても、岩木山の紅葉は感動の美しさでした。(K)

\*\*\*\*\*